

1章

問題

【1】

A.

全訳

私たちは大人になるにつれて、どの感情を各自が抱いたり表現したりしてよいと思っているのか、あるいはどの感情をそうしてはいけないと思っているのかによって、その形が決定される「感情の足型」とでも呼ぶべきものを発達させる。あなたが成長期だった時のことを思い出してみしてほしい。あなたの家族は感情をどのように扱っていただろうか？ どんな感情なら気軽に話し合え、どんな感情についてはそれが存在しなかった「ふり」をしたらどうか？ 家族の感情生活におけるあなたの役割は何だっただろうか？ 今はどんな感情が、あなたにとって認めたり表現したりしやすいと思うだろうか。また、誰に対してならそうしやすいのだろうか？ こういった質問への答えを考えていくと、あなたの「感情の足型」の輪郭が見え始めるのである。

B.

全訳

辞書の執筆者は、ある語がどういう意味でなければならないとか、どのように綴られ、また発音されなければならないかということを教える人ではない。彼らは語に関する事実の単なる記録者である。彼らは、ある語が一般の人たちによって、どう使われてきたか、そして現在どう使われているかということを記録しているだけである。

C.

全訳

日本人は非常に音楽を愛する国民であり、これは特に西洋音楽に対して当てはまる。自らの伝統的な特徴を捨てるのをしばしば難しく思う日本人が、西洋音楽にこれほど容易にそして熱意を持って没頭するとは、ほとんど信じ難いことである。実際、東京や大阪では西洋音楽を耳にするほうが、伝統的な日本の音楽を耳にするよりも、現在では普通のことになっている。

D.

全訳

絵を描く能力は、特別な^{てんぷ}天賦の才能によるものではなく、もっと正確に言えば、我々誰もが持っているが、往々にしてそれと気づかない天賦の才能によるものである。このことは、子供は誰でもほぼ生まれながらの本能によって絵を描くという事実によってはっきりと証明されている。かつては我々もたぶん自ら絵を描いたこと、しかも自由気ままに描いたことを忘れてしまったのだろうか。あの頃絵を描いたのは、我々が子供だったからではなく、何の恐れも抱かなかったからなのだ。子供というものは、色の使い方に何の制約も受けなし、またできあがった絵に対して下されるかもしれないいかなる解釈に関しても無関心である。

もし大人も子供と同じように周囲に無関心であることができるならば、子供と同じくらい容易に絵を描くということになるだろう。

E.

解答

(1) 「全訳」の下線部①～③参照。

(2) d, f

a 人間嫌いであるので、私は進んで世間に背を向けてきた。

b 私は子供時代をほとんど孤独に過ごした。

c 私が意図するのは様々な人類の経験を描写することである。

d 孤独は人間生活において避けることができないと私は思う。

e 私の経験してきた孤独はまれで珍しい現象である。

f 成長してから一時期だけを除いての年月をずっと、私は1人で過ごしてきた。

全訳

私の生涯は、私の知っている限りのどんな人の生涯にも増して、孤独と放浪に費やされてきた。なぜそうなのか、どうしてそうなったのか、私には言えない。しかし事実はそうなのである。①私は、15歳の時から——たった一度のある期間を除いては——現代の人間にはこれ以上の孤独な生活は送れないというくらいの孤独な生活を送ってきた。つまり、私が1人で過ごした時間や日や月や年の数が莫大で、人並外れていたということである。だから私は、人間の孤独の経験について、私が体験したそのままの書くつもりである。②私がそうした気持ちにかられる理由は、孤独について私の持っている知識が、他の人々のそれと本質的に異なると考えているからではない。その正反対である。③今や私の生活の全ての確信は、孤独は私自身と少数の他の孤独な人達だけに見られるまれな珍しい現象では決してなく、人間の存在の中心となる、避けられない事実であるという信念に基づいている。

【2】

ポイント

長文総合問題。文章は実際の入試の英文よりも平易だが、ややゆだねた表現が多いので少し戸惑ったかもしれない。初見の文章では設問箇所を中心に考えつつも文章全体を大局的に眺める姿勢も大切である。予習で気づかなかった細かい事項は授業後に復習で補おう。

解答

(1) a (2) b (3) d (4) c

(5) c (6) d (7) d

(8) 「全訳」の下線部⑧参照。 (9) write (10) a

解説

(1) 空所の前の部分では、前の段落で述べられた money problems が引き続き話題となっている。l. 8 の flaw (～にひびを入らせる) や enigmatic (不可解な) といった単語はやや難しいが、前の段落からの流れを受けて読めば、著者がお金の問題に対して何の手だても講じていなかったことがわかるだろう。空所を含む文ではその理由が説明されている。「自分の唯一の望みは(お金を稼ぐことではなく)書くこと(=作家活動をすること)だっ

たからだ」と言っているのである。次の文の「16か17の時にはすでに自分でもそれをわかってた」も併せて考えれば、空所に入るのは **a** の「ずっと（以前から）」であると判断できる。

- (2) 空所を含む文の前文では、作家になるということは普通に職業を選ぶこととはわけが違ふと述べられている。この内容を受ける文としては **b** の「作家になるということは、選ぶというより選ばれるということだ」が適切である。it は Becoming a writer を受けており、not … so much as ～ は「…というよりはむしろ～」の意味。「選んで作家になるというよりもむしろ、選ばれて作家になる」というのが直訳に近い解釈。**a** は「決して人生を選ぶことはない」、**c** は「職業を選ぼうと選ぶまいと」、**d** は「選ばれないかぎり作家になることを選ぶ」の意味。
- (3) 空所を含む部分の前では、「作家ではまともに食べていくのは無理なので、住む家と食事を望むのなら…」という内容が続いている。この流れを汲めば、空所を含む部分は「(生活に必要な) 請求書の支払いをするために他の仕事をせざるを得ない」というような内容になるはずである。したがって、resign oneself to …ing で「諦めて…する」の意味になる **d** が正解。**a** は attach oneself to ～ で「～に所属する；～に加入する」の意。**b** は free oneself from ～ で「～から脱する；～がなくなる」の意。**c** は refrain oneself from ～ で「～を自制する」の意。
- (4) 前の部分では、作家では食べていけないということはわかっていたし、そのことについて不平もなかったと書かれている。これに続いて「その点では…」と述べられている。空所の後の部分は「自分にはあまり物欲というものがなく、貧乏になることも怖くなかった」という内容であるから、この文脈に適しているのは **c** の「私は非常に幸運だった」である。「作家を目指せば貧乏になることはわかっていたが、幸い自分は貧乏を苦しめない性質だった」という流れをつかむこと。**a** の a man of ability は「有能な人」、**b** の a man of means は「資産家」の意味。**d** の materialistic は「物質主義の」の意味の形容詞。
- (5) 空所の前の部分では、自分はちゃんとした仕事を持つことにまったく興味がなかったと述べられている。また、空所の後では「やりたいことがたくさんあった」といった内容が続いている。したがって、「身を落ち着けるには若すぎた」という意味になる **c** が適切である。**d** の turn around は「態度を変える；方向転換する」の意味。
- (6) 下線部は直訳すると「自分以外の誰に対しても一切責任がなく」となる。下線部の前後は「当時は生活費も安く、(わずか) 3,000 ドルほどで1年間やっていくことができた」という内容になっている。下線部はそのように少ない収入で生活できた理由 (の1つ) を示していると考えられる。したがって、**d** が最も適切と判断できる。
- (7) 空所を含む部分は「(お金をもらいながら勉強できるという) 理想的な境遇にあっても、自分はすぐに () と気づいた。」という意味になる。この後に続く「勉強はもううんざりだった」という内容と考え併せても、ここは want no part of ～ で「～に関わりたくない」の意味になる **d** が適切とわかる。

Ex. It was a bad idea and he *wanted no part of it*.

(ひどい案だったので、彼はそれには関わりたくないと思った。)

(8)

◇ the prospect 〈of spending another five or six years as a student〉

struck me **as** a fate worse than death

○主語は the prospect of … a student の部分。the prospect of …ing が文の主語として用いられる場合は「…すると考えると～」のように訳すと自然な日本語になることが多い。

○ another five or six years : another は通例、単数形の可算名詞の前に付くが、‘数詞＋複数形の名詞’を1つのまとまりと考えて、その前に置くことができる。

○ strike ~ as … は「～に…という印象を与える」の意。

Ex. His jokes didn't *strike* Jack *as* being very funny.

(彼が言った冗談はジャックにはあまり面白いとは思えなかった。)

○ a fate worse than death は「(死んだ方がまだましなくらい) つらい経験」の意味。嫌なことやしたくないことをふざけて言うことが多い。

Ex. A week with my Aunt would be *a fate worse than death*.

(おばと1週間一緒に過ごすなんてまさに拷問だ。)

○以上より、全体は「あと5,6年の間、学生として過ごすなどと考えると、それは地獄のように思えた」のように訳せる。

(9) 空所の前の部分で学生を続けるのは嫌だと言っているが、それを言い換えたのが I didn't want to talk about books anymore である。「本について語る」とはつまり「文学について論じる」ということである。では、筆者は学問ではなく何をしたかったのかと言えば、本文全体から読み取れるように「作家活動」をしたかったのである。空所の後の them は books を受けていると考えられるので、空所に入れるべき最も適切な1語は「本を書く＝作家活動をする」の意味になる write ということになる。

(10) 空所の前の部分では「作家が楽すぎる環境に身を置くのは間違いだ。危険なのは自己満足であり、作家がそのような状態になるとその作家は…」という内容が述べられている。文脈の流れから空所には「ダメになる」のような悪い意味合いの表現が入ると推測できる。その点から「作家も同然」の意味の c は除外できる。d は「以前の彼とは違う」の意味になるが、これではいいのか悪いのか判断はできないのでこれも不適切。b は「以前よりもずっと危険な状態に陥る」の意味だが、in danger は「身の危険がある」の意味合いなのでここでは不適切。したがって、「死んだ〔道を踏み外した〕も同然」の意味の a が正解となる。

注

ℓ.3 ◇ founder *vi.* 「失敗する」

ℓ.4 ◇ belt tightening 「耐乏生活」

◇ grinding *adj.* 「(貧乏などが) ひどい」

ℓ.9 ◇ clear-cut *adj.* 「はっきりとした」

ℓ.10 ◇ delude oneself into …ing 「勘違いして〔思い込んで〕…する」

ℓ.14 ◇ woe to ~ 「～に災いあれ」文語的な表現。

◇ bank on ~ 「～をあてにする；～に頼る」

Ex. We were banking on John being there to show us the way. (私たちはジョンがあの場に来て進むべき道を示してくれることをあてにしていた。)

ℓ. 15 ◇ bring in ~ 「～(利益など)をもたらす」

◇ roof over one's head 「住む家」

ℓ. 19 ◇ a chance to do the work (which) [I felt] I had it in me to do

↑
関係代名詞の省略

○ have it in ~ to … で「～に…する能力〔勇気；素質〕がある」の意。

Ex. Everyone thinks he *has it in him* to produce a literary classic.

(彼に文学作品を創作する才能があることは誰もが認めている。)

ℓ. 22 ◇ carve out ~ 「～を努力して得る」

◇ as best one can 「できるだけ；どうにかこうにか」

ℓ. 24 ◇ the idea … left me cold : leave ~ cold は「～に興味〔感銘〕を与えない」という意味。

Ex. Opera just *leaves me cold* — I can't understand why people like it.

(私はオペラにはまるで興味がない。人々がオペラに魅かれる理由がわからない。)

◇ punch a clock 「タイムカードを押す」

ℓ. 25 ◇ utterly devoid of enthusiasm : devoid of ~ で「～が欠けている〔まったくない〕」の意。

Ex. I have never looked on a face that was so *devoid* of feeling.

(あんなに無表情な顔は見たことがない。)

ℓ. 27 ◇ get by 「何とかやっていく」

ℓ. 28 ◇ scrape along 「何とか暮らしていく」 scrape by とも言う。 get by とほぼ同意。

Ex. He lost his job, so the family had to *scrape along* on £95 a week. (彼が失業したため、家族は週に95ポンドで暮らしていかなければならなくなった。)

ℓ. 31 ◇ tuition *n.* 「授業料」

◇ fellowship *n.* 「特別研究員 (の地位)」

◇ stipend *n.* 「給付金；奨学金」

ℓ. 36 ◇ like-minded *adj.* 「同じ考え方の」

ℓ. 37 ◇ complacency *n.* 「自己満足；ひとりよがり」

全訳

20代後半から30代前半にかけて、やることなすことすべてがうまくいかない時期が数年間続いたことがあった。結婚生活は破綻し、物書きとしての仕事は行き詰まり、経済的な問題で困りきっていた。ここで言っているのは時々起きる金欠状態とか一時的な節制生活というような話ではなく、恒常的かつ極度の、息苦しくなるような金欠状態である。この状態が続いたおかげで私は精神的にもすさんでしまい、絶えずパニック状態に陥っていた。

そうなったのも誰が悪いというわけではなく、私自身がいけなかったのだ。私は昔からお金とは縁が切れっぱなしで、その縁は謎めいていて、矛盾した衝動に満ちたものだった。そして私はこの問題に対してははっきりとした態度をとらないことに対する代償を支払っていたのである。以前からずっと、私の唯一の野望は物書きになるということだった。私は16か

17の時にはすでにこの野望を自覚していたが、それで食べていけるなどと思い込んだことは一度もなかった。作家になるということは、医者や警官などになるというような「職業選択」ではないのだ。物書きというのは選ぶというより選ばれてなるものなのであり、いったん自分が作家以外の仕事には向いていないという事実を受け入れたなら、これから先、長く辛い道りを歩むことを覚悟しなければならないのだ。神々の寵愛を受けられでもしないかぎり（そんなものに頼る人には災いあれ）、作品から得る収入では絶対に暮らしていけない。雨つゆしのげる家は手に入れたいし、飢え死にはしたくないというのなら、請求書の支払いをするために、諦めて他の仕事をせざるを得ない。私はそういったことはすべて承知で、覚悟はできており、不満は一切なかった。その点、私は非常に幸運だった。物質的なものに関しては特に欲しいものはなかったし、貧乏になるという行く末にも恐怖感は無かったからだ。私が望んでいたのは、自分にその才能があると考えられる仕事をする事ができる機会、ただそれだけだった。

たいていの作家は2つの顔を持つ。まっとうな職業に就いて十分な収入を得て、早朝や深夜、週末や休暇など可能なかぎり執筆のための時間を捻出するのだ。私の場合、問題は、2つの顔を持つような生活にまったく興味がなかったことだった。と言っても、仕事をする意欲がなかったというわけではない。ただ、9時から5時まで働くような仕事に就いてタイムカードを押すなんていうのはひどく退屈なことに思えて、何の感興もわかかなかった。当時私はまだ20代前半で、一つ所に腰を落ち着けるのはまだ早いと感じていたし、やりたいことが多くありすぎて、自分の望む以上の、あるいは必要とする以上のお金を稼ぐことに時間を費やしてはもらえなかった。財政面に関しては、自分はただ何とか暮らしていければよかった。当時は生活費も安く、自分以外の人の面倒を見る必要もなかったから、年収が3,000ドルくらいあれば何とかやっていると判断していたのだ。

私は1年間、大学院に通ってみたこともあった。だが、それも、コロンビア大学が、授業料免除で2,000ドルの給付金付きの特別研究員の地位を提供してくれたからにすぎない。これは事実上、給料をもらいながら勉強できるということだった。だが、私はそのような理想的な境遇にありながら、すぐに自分がそこから抜け出したいと思っていることに気づいた。学問はもううんざりだった。⑧あと5、6年も学生を続けることになるのかと考えると、死んだ方がましなような気がした。私はもう本について語りたくはなく、本を書きたかったのである。私の主義から言えば、作家が大学にこもったり、自分と似たような考えの持ち主ばかりの環境に身を置いたり、安寧にひたった暮らしをしたりするのは間違っているように思えた。危険なのは自己満足だった。ひとたびその状態に陥ってしまうと、作家としては死んでも同然なのだ。

【3】

解答

The restaurant : F The audio store : E

Script

CD 1

W : Excuse me. Could you tell me how to get to Joey's Restaurant?

M : Do I know how to get to Joey's? Of course. Everybody knows Joey's. They have the best Italian food in town. I go there at least once a month. It's a short walk from here. OK, listen. Go up this street until you get to the third light, then take a left.

5 W : Up this street and left at the third light. Do you know the name of that street?

M : It's Venice Avenue, but I'm not sure if there is a street sign. You'll see a small Chinese restaurant on the corner. Turn left there and go up Venice Avenue about two or three minutes until you come to a fork in the road. Take the right fork.

W : Up Venice about two minutes, then take the left fork, right?

10 M : No, the right fork.

W : The right fork.

M : Yeah. Then keep going until you see a small supermarket on your left called Shopmart. Go past the Shopmart and take the next left. You'll find Joey's on the right, just past the big discount audio store. What's it called? Oh, yeah. Crazy Eddie's. It's just past
15 Crazy Eddie's. You know, the place with the funny TV commercials.

W : OK, I think I've got it. Up this street and turn left at the third light. Then up Venice until I reach the fork. Right at the fork and then the first left after the Shopmart. It's on the right just past Crazy Eddie's.

M : Right, right. You've got it. And let me give you some advice. Order the linguine with
20 white clam sauce. They're famous for it.

W : Thanks a lot. It sounds like a good place. [277 words]

全訳

W : すみません。Joey's Restaurant への行き方を教えていただけませんか？

- M: Joey's の行き方を知ってるかって? 誰だって Joey's のことは知ってるさ。あそこはこの町で一番のイタリア料理を出すんだ。月に一度は行ってるよ。ここから歩いてすぐだ。さてと、よく聞きな。このとおりを3番目の信号まで行ってそれから左折する。
- W: この通りを行って3番目の信号を左。その通りの名前は知っていますか?
- M: Venice Avenue だ。でも表示があったかどうかはよくわからないな。角に小さな中華料理屋が見えるよ。そこを左に曲がって Venice Avenue を2, 3分、道が2つに分かれるところまで行くんだ。その右の分かれ道に行く。
- W: Venice 通りを2分くらい行ってから分かれ道を左、ですね?
- M: 違う、右の方だよ。
- W: 分かれ道の右ですね。
- M: そう、それから Shopmart っていう小さなスーパーマーケットが左側に見えてくるまでずっと行く。Shopmart を通り過ぎて、次を左へ。Joey's は右側、大きなオーディオ用品ディスカウント店を過ぎたところにある。名前? ああ、Crazy Eddie's だ。Crazy Eddie's をちょっと過ぎたところだよ。そう、あのおかしなテレビコマーシャルをやっているところだ。
- W: OK, わかったと思います。この通りを行って3番目の信号を左に曲がる。それから分かれ道に着くまで Venice 通りに行く。分かれ道は右を行って、それから、Shopmart の後すぐの左の道へ。Crazy Eddie's を過ぎた右側ですね。
- M: そうそう。わかってるね。ちょっとアドバイスさせてもらおうよ。リングイーニのアサリソース添えを注文するといい。そこはそれが有名なんだ。
- W: どうもありがとう。良さそうなところですね。

【4】

A.

解答・解説

- (1) **d** 「自分が正しいと信じていることをやりなさい。」

Do で始まるため命令文である。Do の目的語として取れるのは名詞・名詞句・名詞節であるから、what (you believe) is right とするのが正解。a を選んで things の後に which の省略と考えた場合、things which (you believe) "are" right となるはずである。if や whether では、is の主語になる語句がなくなってしまう。

- (2) **d** 「このレストランの食事は高いだけでなく味がひどすぎる。」

taste は形容詞を伴って第2文型を作りうる。また形容詞を修飾するために much は用いないため much bad の強調形である too much bad は不可。too bad を強調した形の much too bad なら可能。

○ besides ...ing 「…は言うまでもなく」

- (3) **b** 「社長に考えさせなければならない問題が依然としていくらか残っている。」

left の後に関係詞 which が省略されている。to consider に続けるためには使役動詞の make や have は不可。render は render O C = make O C として用いる他、第3文型として「～に与える、～を表現する」などの意味があるが、本問の場合、意味が通らない。

get O to do で「Oに…させる」という意味になる。

(4) c 「彼の父は今年初めに車を修理してもらった。」

have は使役動詞であるが、目的語の後に過去分詞を続け、「～してもらう；～される」という意味になる場合、be は不要である。修理を行う人々を they とすると、一応 His father had them repair his car at the beginning of this year. とすることは可能である。

(5) c 「そこで私は、本当に青ざめ、目を赤くしている母を見つけた。私は母の腕の中に駆け寄った。」

S V O Cの形にするために very pale という形容詞を選ぶ。

B.

解答・解説

(1) least

「肉体の強健さを犠牲にして、知性だけを発達させることも同様に悪いことである。」

at least (少なくとも) としてしまうと、the intellect と the expense という2つの名詞が連続してしまい、これらをつなぐ接続詞が必要となる。at the expense of ~ 「～を犠牲にして」という熟語を思い出せばよい。また、全体としてはC V Sの構造となる。

(2) which

「それはあなたが良心の命令に従って自分で決めるべき事柄で、私にはあなたに影響を及ぼそうという気持ちはまったくない。」

which を疑問詞ととらえて名詞節を作ると考えるとS Vを伴う必要がある。また、形容詞節として according to which という‘前置詞+関係詞’をとらえてもその後にはS Vが必要となる。よって、which が不要。なお、according to ~には「①～によると ②～にしたがって (= in accordance with ~)」の2つの意味があることに注意。

(3) to

「日光の有益な効果が発見されて以来、厚着をしすぎることは医学的観点から言うと罪になった。」

since の後にS Vがないため since は前置詞であるが、前置詞 since は接続詞 since と異なり「理由」を表す用法はなく「～以来」という意味になる。したがって時制的に考えて has to はおかしく、現在完了形にすべきである。

(4) be

「映画監督がイリュージョンを創るために用いる基本技術の1つは、異なる時間に撮影されたシーンを1つの映画に組み込むというものだ。」

put ~ into …の～の部分が高いために後置されたもの(後置目的語)。to be put と受動態にしてしまうと、a single film scenes をひとかたまりの名詞句と考えざるをえないが、これは明らかにおかしい(a と scenes (複数形) が矛盾)。

(5) improper

「我々が遠い過去を解釈する上での最も大きな変化はこの20年の間で生じた。というのは、年代設定の新たな仕組みや、有形遺跡の新たな発見や、証拠史料についての再評価が次から次へと生じたために、これまでの調査が急速に時代遅れのものとなったからだ。」

remain C (Cのままである) と勘違いしないように。remains が動詞だとすれば、主

語は schemes や discoveries になるだろうが、いずれも複数形であるため remain となるはずである。new schemes, new discoveries, new evaluations と名詞が列挙されていることから、remains は名詞で「遺跡」と考えられる。

C.

解答

c, d

解説

a 日本語では「～について議論する」と言うが、discuss は他動詞であるため about は不要。

「コーヒーを飲みながらその問題について議論しよう。」

b 日本語では「～に従う」と言うが、obey は他動詞であるため to は不要。

「先生の言うことに従うべきです。」

c attend は「～に出席する」という場合には他動詞であるため前置詞 to は不要であるが、「～に注意する」という場合には自動詞であり、attend to ～となる。

「私が言っていることをしっかり聞いていますか。」

○ attend 「～に出席する」

○ attend to ～ 「～に注意する；～の世話をする」

○ attend on ～ 「《やや古い》～に仕える；～に付き添う」

d 日本語では「～と結婚する」と言うが、marry は他動詞であるため marry with ～ではなく marry ～が正しい。もっとも、過去分詞の married を用いる場合には get married to ～となる。よって、d は正しい。

「ローガンはエミリーと結婚した。」 = Logan married Emily.

e 日本語では「～に近づく」と言うが、approach は他動詞であるため to は不要。

「その猫は音もなくテーブルに近づいた。」

f 日本語では「～に似ている」と言うが、resemble は他動詞であるため with は不要。

「あなたはお母さんに似ています。」

【5】

解答・解説

A.

(1) a 「その塔は、10年前に建てられたが、片方に傾き始めた。」

has started は現在完了であるから「今から10年前に」建てられたもの。

○ ~ ago 「今から～前に」

○ ~ before 「(過去の) ある時点から～前に」

○ decade 「10年」

○ lean 「傾く」

(2) a 「ステーキが今何しているか知ってる?」「ああ、20分ほど前に彼を見た時には図書館で本を読んでいたよ。」

時制の問題。「20分ほど前に見たときに」と過去の一時点を表しているため、現在完了や

現在進行形などは使えない。

- (3) **b** 「イーサンがそのパソコンを使っているの、もう2、3分待たなければならないでしょう。」

since は‘過去の起点’を表す「～以来」の意味ではなく、‘既知の理由’を表している。従って現在進行形の **b** がよい。 **a** の現在形では、‘現在の進行’ではなく‘現在の習慣’を表すことになる。

cf. He goes to school. = He is a student.

(彼は普段は学校に行っている。 = 彼は学生である。)

- (4) **d**

X 「あなたのお姉さんがヴェネツィア旅行からもうすぐ帰ってくるそうね。」

Y 「いえいえ、もう2週間前に帰ってきました。もうここにありますよ。」

No, no. と言っている以上は、逆の内容の質問をしたことになる。つまり「2週間前に帰ってきた」とは逆の内容、「まだ帰ってきていない」という意味を持つ **d** が正解となる。

- (5) **a** 「私は3日後に東京を去ります。つまり、私たちには出発まで3日しか残っていません。」

in ~ days は「～日以内に」という意味ではなく「～日後に」という意味であることに注意。

- no more than ~ = only ~ 「～だけ」
- not more than ~ = at most ~ 「多くとも～」
- no less than ~ = as many [much] as ~ 「～も」
- not less than ~ = at least ~ 「少なくとも～」
- only a little ~ 「ごく少量の～」

cf. not a little ~ = quite a little ~ (かなり大量の～)

- only a few ~ 「ごく少数の～」

cf. not a few ~ = quite a few ~ (かなり多数の～)

- (6) **b** 「工場の(生産)ラインが少なくとも3時間停止しなければならなかった。というのは誰かがローラーの清浄をし忘れてしまったからであった。」

forget to do (…し忘れる) と forget …ing (…したことを忘れる) に気を取られて時制という観点を忘れないように。また had to forget では、意味が通らない。

B.

- (1) At (this time tomorrow we will be watching a soccer) game at the National Stadium.

- 「明日の今頃は」 at [about] this time tomorrow

will be watching は未来進行形であるが、「このままいくと～になる」という成り行きを表すことがある。

- (2) When I returned to the park, (I found that the man had already disappeared) .

「公園に戻ってきた時に私が発見した」と考え、「すでにその男は姿を消していた」という事実を過去完了で表す。

- (3) In Hokkaido, we (will have several feet of snow on the ground by the time

Christmas comes).

「SがVするまでには」は by the time S V で表すが、これは時の副詞節であるから節内の動詞を現在形で表すことに注意。

- (4) I felt uncomfortable and (was about to leave when she grabbed me by the) arm. was about to do (,) when S V (…しようとしたとそのとき S V) の形式。grab me by the arm は ‘動詞 + 人 + 前置詞 + the + 場所’ の構文である。

cf. He pulled me by the sleeve. (彼は私の袖を引っ張った。)

She looked me in the face. (彼女は私の顔を見た。)

He patted me on the shoulder. (彼は私の肩を叩いた。)

C.

- (1) I have been [lived] in New York for three years.

‘現在までの継続 (・結果・経験・完了)’ は現在完了形で表す。

- (2) I lived in New York for three years.

過去完了形にしてしまった人には反省を促す。過去完了形は過去のある時点を基準とした時制であるため、今から考えて「昔3年住んでいた」というのは、あくまで過去時制の範疇に入る。

【6】

解答・解説

- (1) ×, ×, a

「彼は1週間につき2日、自転車で学校に行く。」

通学のように本来の目的で行う‘習慣的行為’を表す場合は無冠詞になる。手段を表す場合には by + 無冠詞となる。two days a week の a は「～につき (= per)」の意味を表す。

- (2) ×

「その赤ちゃんの顔じゅうに卵がついていますよ。」

an egg では普通名詞として卵1個を指すが、ゆで卵のかけらなどがついているという状況では、不可算名詞である物質名詞 egg となるため冠詞は不要。

- (3) an, a, the

「およそ1時間前にジョージは言った。『ここに来て1年になるけど、日本人が本当はどう感じているか理解できないよ』と。」

hour は [aʊər] と母音で始まるが、year は [jɪər] という子音で始まるため、不定冠詞が異なることに注意。

the Japanese = Japanese people で、単に Japanese だと「日本語」となることが多い(ただし、無冠詞でも許容可とするネイティブもいる)。

- (4) ×, a, the

「まずはじめに、『はい』と答えた人たちの意見から見てみよう。」

first of all (まずはじめに) は定型表現のため the はつけない。take a look at ~ (～を見る) も同様。opinions は、of 以下の限定がついているので the をつける。

(5) The, ×

「2の平方根は無理数です。」

square root には of 以下の限定があるため the をつける。two は「2」の意味であるから無冠詞。

(6) The, the, the

「その青い花は2つのうちで美しいほうだ。」

この発言がなされた状況として2本の花があることが前提となっているため、主語の flower には the をつける。また、2者を比較する場合には原則として 'the + 比較級 + of the two' の形となる。

(7) the, ×, a, a

「子供の頃、私はウィーンに何度も訪れました。」

○ Vienna は固有名詞（地名）であり the をつけない。

○ many + 複数形 = many + a + 単数形

Ex. Many boys like soccer. = Many a boy likes soccer.

○ as a child は「子供の頃」という意味。

(8) ×, ×

「改善の余地がある。」

room は「部屋」という普通名詞ではなく「余地；空間」という抽象名詞のため無冠詞にする。improvement（改良；改善）も、いまだ特定しているとは言い難いため無冠詞でよい。

(9) the

「黒い猫が近寄ってきて、私の頬を舐めた。」

He caught my arm. = He caught me by the arm. などのように '動詞 + 人 + 前置詞 + the + 場所' となる構文がある。前者は「私の腕」に焦点があるのに対して、後者は「まず私をつかむ」ことに焦点が置かれ、その後に場所を付け加えている。

(10) a, ×, a, ×, a [×], the, ×, the, the

「カップとソーサーを用いて紅茶を飲む際には正しいマナーがあります。テーブルに座っている場合に紅茶を頂く正しいマナーは、ティーカップだけを持ち上げて、飲む度ごとにそれをソーサーの上に戻すというものです。」

There is 構文では「ある1つのマナーがある」と述べているから a がつく。「紅茶〔コーヒー〕を飲む」は drink coffee [tea] でよい。cup and saucer は2つで1セットになっているので初めに a をつけるだけでよい。

e.g. the bread and butter（バターつきパン）

a needle and thread（糸のついた針）

at table という表現もあるが at a table でもよい。raise the teacup, the saucer に the がつくのは、いずれもすでに特定されているため。

2章

問題

【1】

A.

全訳

気前のよさとは、他人の中にあっては、客観的に理解するのが難しい美德である。①他人の行動を判断するとき、我々は気前のよさそれ自体に対してよりも、その人が提供してくれるものに対して、普通関心を抱く。例えば、ある裕福な人が大金を貧しい親戚にあげたということを目にすると、当然我々はその人が「気前のよい人」だと思う。それにもかかわらず、そのような行為はほとんど何も要しないのかもしれない。我々がわからないのは、その人の動機である。つまり、その人は本当に親戚の困窮をわかっていたのであろうか、あるいはその人は罪の意識を感じたくないだけなのか。②言い換えれば、気前をよくするには様々な方法と手段があり、我々が如何に立派に我々の美德を実践するか、また我々の動機が如何に清廉潔白であるかに応じて、まったく同じ行動でも、気前のよさの現れとなったり、そうでなくなったりするかもしれない、ということである。

B.

全訳

時代遅れのお伽話^{とぎばなし}を幼い子供達に読んで聞かせることは、彼らを恐がらせるので良くないと言う者がいる。しかしお伽話などなくてさえも、幼い子供達の生活は不安で満ちている。原始時代の人間のように、彼らは自分では理解することができない世界に住んでいる。お伽話は、神話や宗教の儀式が原始時代の諸部族のために行っていたことを幼い子供達のために行うことができ、また実際に長い年月に渡って行ってきた。すなわちお伽話は、彼らの不安にその正体を見極めるための名称を与え、それを支配し、さらにはひよっとするとそれを追い払うかもしれない手掛かりを与えるのである。未知なるものに対する不安を、幽霊や魔女や巨人といったものに対する不安へと転化させられる子供は、そのようなものはこの世に存在しないということを知ったときに、その不安の大半を取り除くことができるだろう。

C.

全訳

①ラテン語を勉強している人は誰であれ、literature という単語が「書かれたもの」という概念を意味するものであることがすぐにわかるだろう。最も広い意味でとれば literature は「書かれたものの総体」を意味する。

やや限定した意味でとる場合、literature は「ある特定の主題に関して書かれたものの総体」を意味することがある。例えば、コンピュータに関してレポートを書くように言われたら、我々はまず図書館へ行き、literature on the subject (テーマ別文献)を探すはずである。②別の言葉で言えば、その場合、最初に我々がすることはコンピュータについて論じているどのような本や記事を見つけられるかを調べることになるだろう。

©そしてさらに狭義になれば, literature という語は特定の商品进行宣传するために発行される印刷物をさして用いられることがよくあるのだ。我々があるモデルの車に興味を持てば, そのメーカーはすぐに我々に literature (パンフレット) を送ってくれるのだ。

D.

全訳

凡人は本能的に, この慣れ親しんだ世界の既成の秩序をくつがえすようなものは何であれ憎む。新しい考えは, 何らかの点で彼の信念と矛盾するものなので, 精神を構築しなおさなければならぬということを意味する。そして, これは痛々しいほどの頭脳エネルギーを消耗する, 骨の折れる過程であるに違いない。

E.

解答

(1) ① a ② the ③ × ④ the

(2) 「全訳」の下線部①参照。

(3) スポーツにおいて勝ちたいと望む気持ちが強すぎたため, アメリカの価値を強化するというよりは腐敗させてしまった。

全訳

①アメリカではスポーツが多くの人に称賛されているが, あることを過度に推し進めた場合にスポーツの力が腐敗してしまうことに対し, 特に批判的である人もいる。たとえば, スポーツにおいて勝ちたいと望む気持ちが極度に強くなると, アメリカの価値を強化するというよりは腐敗させてしまうことがありうる。

批評家たちは, あまりにも多くのコーチや選手がまさにこのことをしてきたと指摘してきた。1960年代の有名なフットボールのコーチであるヴィンス・ロンバルディ氏は, 勝つことこそが, スポーツにおいて「唯一」大事なことであると明言したために, 酷評されることが多かった。コーチがそういったことを口にするによって, フェアプレーや競技のルールを守ることや, 敗れたときに品位ある態度で振舞うことなどもまた重要であるという見解を弱めてしまうと批評家たちは考えている。不運にも, ロンバルディ氏の「勝つことこそが唯一重要なこと」という哲学を共有しているコーチは多い。もう1人のアメリカで最も有名なフットボールのコーチ, ウッディー・ヘイズ氏はかつて, 「『負けたことは心配いらぬさ。とにかく, いい試合をしたんだから』と言う人はどんな人であれ, 俺は大嫌いだ。」と語ったことがある。

【2】

ポイント

国公立大入試の下線部和訳問題では, 下線部以外の問題文全体をよく読み, 文脈を正確につかんで訳すことが要求される。今回はこのような出題傾向に合わせて出題した。

解答

「全訳」の下線部①～③参照。

解説

①◇ Expanding nuclear defense or offense systems into space

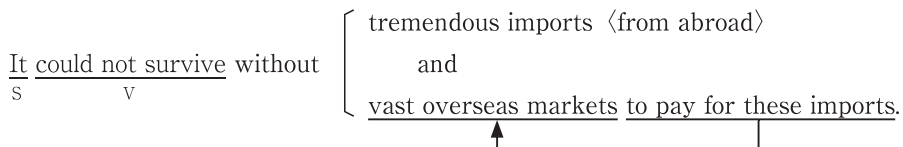
S

makes the situation more complex and therefore more hazardous.

V O C₁ C₂

- Expanding ~ into space : ここまでが全体として動名詞主語となっている。無生物主語構文なので、「核による防衛あるいは攻撃体制を宇宙にまで拡大すれば」のように訳を工夫するとよい。
- makes the situation more complex ~ more hazardous : 'make + O + C' の形で「OをCにする」という意味の第5文型。動名詞は三人称単数扱いなので、makes と三単現の-s が付いていることにも注意。ここでの the situation は「(私たちを取り巻く) 状況」の意味である。

②◇ 文の構造は以下の通り。



- 主節に助動詞の過去形 could が使用されていることに注目。助動詞の過去形が出てきたら条件節の有無にかかわらず仮定法を疑ってみよう。ここでは without ~ 以下の部分が if 節の代用表現となっている。ここでの without ~ は「～がなかったら」の意味。
Ex. Without television, life would be unbearable for some people.
 (テレビがなければ、一部の人には生活が耐えがたいものになるだろう。)
- *cf. With a little more care, you wouldn't make such a silly mistake.*
 (もう少し注意すれば、君はこのようなばかげた過ちは犯さないだろう。)
- survive : ここでの survive は「生き残る」という意味の自動詞。survive ~ 「～を生き抜く」という他動詞用法でもよく使用される。
Ex. Unlike so many of his comrades he survived the war.
 (多くの彼の戦友とは違い、彼はその戦争を生き抜いた。)
- to pay for these imports は vast overseas markets を修飾する不定詞の形容詞的用法である。ここでは‘可能’の意味にとらえて訳すとよいだろう。vast overseas markets to pay for these imports (これらの輸入品の代金を支払うことを可能にする巨大な海外市場) とは、「これらの輸入品の代金を支払うため、日本が輸出によって利益をあげることができるといえる巨大な海外市場」の意味である。

する世界人口と、貧しい発展途上国の急速に増加している人口の貧困と、豊かな先進諸国のより固定的な人口統計状態との間の隔たりの拡大である。

先進工業国の経済は非常に相互依存関係が深くなったために、これらの諸国はすべてその繁栄を、あるいは場合によっては生存そのものを互いに依存している。日本はその適例である。②日本は海外からの大量の輸入品とこれらの輸入品の代金を支払うための巨大な海外市場がなければ、生き残ることはできないであろう。衣料の原料、機械や製品の原料、国内の住宅や紙のための木材、食料生産のための肥料や飼料用穀物のほとんど、国民が消費する食料の多くだけではなく、日本のエネルギー資源の大半は海外から来る。広大な世界規模の貿易システムがなければ、おそらく日本人の大部分は最低生活水準でさえ生きていることはできないであろう。アメリカ、カナダ、オーストラリアのような他の地理的により大きな国々は日本よりも生き残る可能性が大きいかもしれないが、それも幸福感が大幅に低下した水準においてでしかない。

③世界経済がより複雑に、また相互依存がより深まるにつれ、私たちは工業国間の経済摩擦が急激に増大するのと、ある国の経済状態が他の国々の経済状態に影響を及ぼす傾向が高まっていくのを見てきた。私たちは皆一緒に、経済的には同じ船に乗っているということが十二分に明らかになった。もしもその一部が沈み始めると、船全体が浸水して沈没するだろう。私たちは私たちの間の摩擦が原因で、船の整備から注意をそらすようなことがあってはならない。私たちの間の貿易戦争は競争相手側の船底に穴をあけるようなものであろう。浸透してくる水はすぐに船全体を満たし、私たちは皆一緒に沈むであろう。ここは明らかに密接な協力と私たちの共通の運命について共有された見解が必要とされる領域である。私たちはもう単なる自分たち自身の狭い利己主義で行動することはできないのであって、私たちは責任ある世界市民として経済問題に対してより国際的に取り組まなければならない。

注

ℓ. 1 ◇ take ~ for example 「～を例に挙げる」

ℓ. 6 ◇ be true of ~ 「～に当てはまる」

Ex. Babies need a lot of sleep and this is particularly true of newborns.

(赤ん坊は多くの睡眠を必要とし、このことは特に新生児に当てはまる。)

ℓ. 7 ◇ diverse adj. 「多種多様な」

◇ concentrate ~ on ... 「～を…に集中する」

ℓ. 11 ◇ The third is

| |
|-------------------------------|
| the swelling world population |
| and |
| the growing gulf |

↑
between

| |
|-----------------------------------------|
| the poverty of ... backward nations |
| and |
| the more static ... advanced countries. |

○ the growing gulf には between ~ の長い修飾語句が付いている。between A and B で「AとBの間の」の意味。この文中には and が4つも含まれているが、それぞれが何と何を並列しているのかに注意しよう。

ℓ. 13 ◇ a backward nation 「後進国」今は a developing country と言うのが普通。

○ backward *adj.* 「発達の遅れた」

◇ static *adj.* 「静止している；安定している」

ℓ. 15 ◇ interdependent *adj.* 「相互に依存している」

ℓ. 16 ◇ these countries all depend on each other for their prosperity : these countries の直後の all は同格表現で these countries all 全体で「これらの国々は皆」と訳せばよい。また depend on ~ for ... で「...を~に依存する」という意味のイディオムであることにも注意しよう。

Ex. He *depended on* his aunt *for* his school expenses.

(彼は学費を叔母に出してもらった。)

◇ their very existence : 「生存そのもの」ここでの very は名詞を強調する「まさにその~」の意の形容詞として用いられている。

Ex. The *very* step taken to help him brought about his ruin.

(彼を助けるために取られたまさにその手段が彼を破滅させた。)

ℓ. 17 ◇ a case in point 「適例」 in point で「適切な」の意。

ℓ. 18 ◇ the great bulk of ~ 「大部分の~」

ℓ. 19 ◇ clothing (衣類), machinery (機械類), housing (住宅) は集合名詞なので、単数として扱う。対応する普通名詞はそれぞれ, clothes (衣服), machine (個々の機械), house (家) である。furniture も同じく集合名詞。「家具 1 点」は a piece [an article] of furniture と表現する。

ℓ. 21 ◇ fertilizer *n.* 「肥料」

ℓ. 23 ◇ subsistence level 「最低生活水準」

ℓ. 30 ◇ We cannot allow frictions <between us>
 s v o

to divert our attention from the maintenance of our craft.

○ allow O to ... (O が...するのを許す) の構文。目的語に当たる frictions に between us の修飾がかかっている。to 以下には divert O from ~ (O を~からそらす) のイディオムが含まれているので注意しよう。この文は直訳すれば「私たちは、私たちの間の摩擦に私たちの注意を船の整備からそらさせることを許してはならない。」となる。

ℓ. 32 ◇ portion of ~ 「~の一部」

ℓ. 35 ◇ approach ~ *vt.* 「~ (=問題など) に取りかかる」

【3】

A.

ポイント |||

不要語があるため若干難易度は高くなるが、to 不定詞に気をつけながら正しい英文を作ろう。

解答・解説

- (1) All you have to do is check the Internet using a powerful search engine. (only が不要)
 ○ All S have to do is (to) *do* 「Sがしなければならないことは…だけだ」
- (2) The last thing that the Japanese monetary authorities want to see is the further rise of the yen. (not が不要)
 ○ last 「(the を伴って) 最も～でない」
- (3) You are too wise not to know the real value of things. (very が不要)
- (4) What do you think is an ideal environment in which to learn English? (one が不要)
- (5) You should set a concrete goal for the future so as not to let your family worry. (that が不要)
 ○ concrete 「具体的な」
- (6) How brave of you to jump off the cliff! (for が不要)
- (7) With so many colleges to choose from, how should I pick out the right one for my future needs? (as が不要)

B.

解答

- (1) An elderly pedestrian was hit [knocked down] by a car while crossing the uphill street.
- (2) There is a popular amusement park a ten-minute [ten minutes'] walk from here.
- (3) One half of the world cannot understand the pleasures of the other.
- (4) Some people say earning money is simply means to an end.
- (5) To call oneself a revolutionist is one thing, to be one is another.

解説

- (1)
 ○ 「車にはねられる」は hit または knock down を受動態にして用いる。
 ○ ここでは具体的な「1台の車」なので by a car とする。by car とすると、「車という交通手段」の意になり、by *the* car とすると「あの例の車によって」と特定化されるのでここでは不適切。
- (2)
 ○ ハイフンで結んだ複合形容詞の中の複数名詞には s をつけない。
cf. a five-year-old boy 「5歳の男の子」 × a five-years-old boy
 ○ a walk 「歩行距離」
 ○ 所有格の ten minutes' walk を用いても可。
- (3)
 ○ 「二者の対比」を表す不定代名詞。「一方」が one, 「他方」が the other。
 ○ pleasure は「楽しみ, 楽しいこと」の意味では可算名詞。
- (4)
 ○ 「手段」の means は単複同形の可算名詞で, 単数でも s をつけ, a means や, several

means のように使う。また, end には「目的」という語義がある。

(5)

- call (V) oneself (O) a revolutionist (C) で VOC の形。この場合 O = C。
- A is one thing, B is another. 「A と B は別物だ」は相関構文。

【4】

A.

解答

b

解説

この英文では単独の information ではなく, information network という合成語が1つの普通名詞となっているため不定冠詞をつける。

- a Thank you for giving me so much useful advice. とする。
「たくさんの有用なアドバイスを頂きありがとうございます。」
- b 正解。「私の先生はツイッターを情報ネットワークとして説明しました。」
- c The patient will eventually need equipment to supply oxygen. とする。
「その患者はいずれ酸素を供給する器具が必要となるでしょう。」
- d Do not operate heavy machinery while taking this medication. とする。any pieces of の場合も, machinery は複数形にしない。また, この英文の場合, 複数の重機を考える必要もないため。単に heavy machinery でよい。
「この薬の服用中は重機の使用はお控えください。」

B.

解答・解説

(1) What (line of work is your mother in)?

トム「あなたのお母さんはどんな仕事をしていますか?」

リリー「証券会社で働いています。」

line には「職業; 商売」という意味がある。

(2) (That used to be the case a long time) ago.

父「あなたの年齢の頃は, もっと一生懸命勉強していたよ。」

娘「昔はそうだったんでしょうね。」

通例 the case の形で「真実, 真相」の意味となる場合がある。

Ex. As is often the case with him, he is late.

(彼にはよくあることだが, 遅刻している。)

(3) (It is none of your business), Mom.

母「あなたの集めたマンガ本売っちゃいなさいよ。」

息子「お母さんには関係ないよ。」

business には「務め; 本分」という意味がある。

- It's none of your business. = It's no business of yours. は「あなたには関係ない, 口出しするな」という強い表現。

(4) The statesman is said (to be on friendly terms with gangsters).

「その政治家は暴力団と友好的な関係にあると言われている。」
terms (複数形) には「付き合い；間柄」という意味がある。

Ex. I am on speaking terms with him. (彼とは話をするような間柄だ。)

(5) I love sleeping, but the (trouble is I cannot study while sleeping).

「私は眠るのが大好きなのだが、寝ている時には勉強ができないのが困りものだ。」

○ The trouble is (that) S V. 「困ったことにSはVである。」

他にも、The fact is that S V. (実際にはSがVである。), The result is (that) S V. (その結果、SはVである。) などがある。

C.

解答・解説

a herd of cattle (牛の群れ) のように集合体を表す表現をまとめておく。

○ a band of robbers 「盗賊の群れ」

○ a bunch of flowers 「花束」

○ a flock of sheep 「羊の群れ」

○ a gang of roughts 「暴力団」

○ a herd of cattle 「牛の群れ」

○ a pack of wolves 「オオカミの群れ」

○ a pride of lions 「ライオンの群れ」

○ a school of fish 「魚の群れ」

(1) bees 「学校帰りに蜂の大群に襲われた。」

○ swarm 「(ハチや昆虫などの) 群れ」

(2) deer 「その公園では鹿に餌をやることができる。」

○ herd 「(牛・象・鹿などの) 群れ」

(3) fish 「サンゴ礁には小さな魚の群れが棲んでいます。」

○ shoal 「(魚の) 群れ」

school とも言う。

○ coral reef 「さんご礁」

(4) ants 「今日、昆虫の死骸を見つけた。すると蟻の大群が窓から入ってきてそれを巣へと運ぼうとした。」

○ troop 「(移動する人、猿、蟻の) 群れ」

【5】

A.

解答・解説

(1) **b** 「スイスでは何語が話されていますか。」

発言者がスイス人である場合 we でもよいだろうが、状況からして海外の人がスイスに関する質問をしているものと考えて they を選ぶ。d person は普通名詞なので無冠詞単数ではおかしい。people を普通名詞で扱おうと「民族；国民」となるが、c の「特定された複

数の民族」を表すので、不適。

(2) **b**「料理それ自体が、日本では芸術作品だ。」

○ by oneself 「ひとりで」、for oneself 「独力で」、in oneself 「それ自体で」、of oneself 「ひとりでに」

(3) **b**「エマは大変優しい人だ。つまり彼女は親切そのものだ。」

○ all kindness = kindness itself 「大変親切な」

(4) **d**「うさぎの耳は猫の耳より長い。」

those = the ears である。that は単数名詞を繰り返す際に用いる。

Ex. The population of Tokyo is larger than that of Kyoto.

(5) **d**「私は1日おきにお風呂に入るが、兄(弟)もそうだ。」

時制に注意する。some other day は「またいつか、日を改めて」という意味で未来の表現。the other day は「先日」という意味で過去の表現。

○ every other day = every second day 「1日おきに」

B.

解答・解説

(1) another 「石油はあと100年もたないだろう。」

○ another ~ years 「さらにあと~年」

cf. Give me another three. = Give me three more.

(2) some 「天然痘はおよそ20年前に世界中で根絶された。」

some には「およそ」という意味がある。

Ex. I have some hundred books. (私はおよそ100冊の本を持っている。)

○ eradicate 「~を根絶する」

(3) The others 「ここが空いている唯一のホテルだ。他のホテルは全ていっぱいなんだ。」
「残り全て」という場合には the others を用いる。

(4) some others 「この靴は好きではありません。他の靴を見せてもらえますか。」

単数形の物を「もう1つ見せてもらう」のは Show me another (one). でよいが、靴のように複数扱いの物を「さらに見せてもらう」場合には Show me some others. とする。この表現は、単数形の物をさらに複数見せてもらう際にも使うことができる。また、I don't like this pair of shoes. という場合には、Show me another (pair). でも Show me some others. でもよい。

(5) other, the other 「リリーとスーザンは、とても気が合っていて、いつでも相手の考えていることがわかった。」

each other は「お互い」、the other は「(2つのうちの)片方」となる。

○ be in tune with ~ 「~と波長(気)が合う」

(6) another, the other 「彼は娘に会いに駅に来たが、そこで見かけた女の子はどの子も彼の娘ではなかった。そのとき道の反対側にもう1人の女の子がいるのに気づいた。」

「駅で出会った数人の女の子」に加えて「さらにもう1人の女の子」という意味であるから another がよい。some は「ある~」という意味があるため間違いとは言えないが、another の方が適切である。

(7) another 「ポールは、すでに3杯食べているのに、さらにもう1杯のご飯を欲しがっている。」

3杯食べた後「さらに」とあるから another がよい。

(8) The other 「先日渋谷で偶然スミス教授に会った。」

the other day (先日) は過去時制と用い、some day (いつか) は未来時制と用いる。

C.

解答・解説

(1) d

either は、肯定文中で side, end, hand など1対になっている語を修飾する形容詞として用いられる場合「どちらの～も」の意味を表す。そのため on either side = on each side = on both sides となる。「側面に並べる」という意味の動詞 flank を用いて The road is flanked with cherry trees. ということもできる。

(2) d

'almost every + 単数形 = almost all + 複数形' となる。nearly (ほとんど) も virtually (大部分は) も almost とほぼ同じ意味になる。

[6]

解答・解説

(1) It is likely that the Internet will have a great effect on our lives.

○ It is likely that S V. 「SがVすることがありそうだ。」

(2) It takes a great deal of patience to face adversity.

○ It takes (O₁) O₂ to do. 「(O₁が) …するには O₂が必要だ」

(3) It will not be long before a computer emulates the human brain, producing various artificial senses.

○ It will not be long before S V. 「まもなく SはVするだろう」

S Vは時の副詞節であるから現在形で表す。

○ emulate 「～を真似る、～に匹敵する」

(4) It is said that it cost about 65 billion yen to construct Tokyo Sky Tree.

○ It is said that S V. 「S Vとされている。」

○ It cost (O₁) O₂ to do 「…するのに (O₁に) O₂ (=金額) がかかる」

(5) It makes no difference if you are rich or poor.

別解 It doesn't make any difference if you are rich or poor.

○ make no difference 「重要でない」

○ it は形式主語で if 節が実質主語の形。

(6) It is not that I agree with every word you've just said.

○ (It is) not that S V. 「SがVというわけではない」

It is は省略されることもある。